

北海道演劇財団の二〇一九の活動

著者	斎藤 歩
雑誌名	Probe : 舞台芸術通信
号	14
ページ	32-33
発行年	2020-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00003345/

北海道演劇財団の二〇一九年の活動

北海道演劇財団専務理事／芸術監督 斎藤 歩

北海道演劇財団の二〇一九年の一年間を振り返ります。二〇一六年の春に斎藤歩を芸術監督に迎え、新しい体制となり四年目となりました。七月からは磯貝圭子(札幌座)、清水友陽(劇団清水企画)、納谷真大(イレブンナイン)の三名を新たに理事に迎えて、現役の第一線の演劇人たちが財団の運営に直接携わる体制となり、北海道の演劇の現場の肉声を直接反映させた事業を組み立てられるようになりました。

①演劇創造事業、②劇場運営事業、③道内各地でのワークショップ事業、この大きく三つに分類した事業を通じて、人材育成、海外交流も行い、北海道を演劇で面白く豊かにして行く取り組みを今後も行つてまいります。

①演劇創造

一月は文化庁・日本劇団協議会からの委託を受け、日本の演劇人を育てるプロジェクト「新進演劇人育成公演(演出家部門)」として育成対象者に劇作家・演出家の小佐部明広(クラアク芸術堂)を指名し、イヨネスコの「二人で狂う」好きだけ」という名作不条理二人劇を斎藤歩・小島達子の出演で創作・公演しました。二〇三月には北海道の地域創造アトリエネットワークの事業として、岸田國士の作品「命を弄ぶ男ふたり」という二人劇を斎



ぐりぐりグリム～シンデレラ

た。

親子で観られる劇シリーズとして二〇一六年から開始した「劇のたまご(げきたま)」も定着し始めています。二〇一八年に初演した劇のたまご「ぐりぐりグリム～シンデレラ」を八月に清田区民ホールで再演した直後に、札幌演劇シーズン二〇一九夏に新たに設けられた「キッズプログラム」に選ばれ、札幌市民交流プラザのクリエイティブスタジオで公演しました。この作品では札幌市内の児童デイケア施設「ペンギアート」の子どもたちによる舞台美術が素晴らしく、今後もペンギアートとの協働での創作の

藤歩・納谷真大の出演で創作。士別市のあさひサンライズホールと、札幌のシアターZOOで公演しました。四月には、国内外の名作にチャレンジするシリーズとして定着し始めている札幌座Pit公演として、これも岸田國士の「葉桜」を斎藤歩が脚色・演出し、磯貝圭子・熊木志保の二人劇として公演。三作品連続で二人芝居を創造しまし

可能性を感じることができました。

九月には三年間取り組んできた劇作家育成事業の締めくくりとして、芸術監督が指定したテーマに基づいて前田透、竹原圭一、小佐部明広、三名の若手劇作家によるオムニバス公演「女と男、座面と境界」を創作・公演。次年度からは新たな二〇代劇作家・演出家の育成を開始します。

一〇月には札幌座第五六回公演として太田省吾の作品「棲家」を斎藤歩の演出で創造。東京から文学座の坂口芳貞さんを招き、八〇歳の俳優ならではの存在感に多くの観客が酔いしれました。本格的な演劇創造に舵を切った北海道演劇財団の創造事業ならではの作品となりました。そして一二月には、清水友陽の演出により、劇のたまご「大どろぼうホッツェンプロッツ」を創造しました。一年に二作品の劇のたまごシリーズが定着しています。

②劇場運営

稽古場スタジオを併せ持った創造型劇場としての事業展開のほか、斎藤歩が持つ人脈を駆使した作品展開を本格的に開始した年でもありました。五月にはシアターZOO企画公演として東京から演出家・佐藤信による鳴座を招聘し「HER VOICE」「火曜日はスパーヘ」の二本立公演を行い、青森からは劇作家・畑澤聖悟による渡辺源四郎商店「背中から四十分」を招聘。この作品には斎藤歩が客演し、青森・東京でも公演し好評を博しました。また提携公演のイレブンナイン「はじまりはおわりではじまり」では、斎藤歩がドラマトゥルグとして参加し中高生

による新作創造を行い、盛り沢山な五月となりました。六月には我が国のコンテンポラリーダンスの第一人者・山田せつ子を京都から招き「速度ノ花」を創作・提携公演として上演。二〇一八年、胆振東部地震の影響で上演を断念した東京の道産子男闘呼俱樂部「雪虫」も提携公演としてリベンジ上演を果たしました。一月のTGR札幌劇場祭では、若手劇団・ポケット企画「おもひ」が新人賞、RED KING CRAB「ありあけ」が大賞を受賞し、シアターZOOがダブル受賞したほか、特別企画公演として「高校演劇解放区」と銘打って琴似工業高校定時制と厚別高校の二校の演劇部に一日ずつ劇場を開放し小劇場公演を経験してもらいました。

劇場での人材育成事業として「劇場のことを考える」シアターZOOラボ」を、新国立劇場の芸術監督を務めた演出家・宮田慶子さんをお招きしてトークセミナーを開催し、札幌で貴重なお話を伺いました。

③道内各地でのワークショップ

立命館慶祥中学でのコミュニケーション能力向上事業。北星女子中学でのルーキーズキャンプや演劇発表への指導・審査員派遣。紋別市社会福祉協議会へは、三回講師を派遣しコミュニケーション能力向上プログラムを実施。文化庁の芸術家の派遣事業では道内の七校（琴似工高、厚別高、平岸高、北星女中、洞爺中、とうや小、苗穂小）へ講師を派遣。近郊の地域で活動する子ども劇団（石狩市「碧い海」への講師の派遣など、多岐にわたるアウトリーチも継続しています。